

活動 第2回AMDA災害鍼灸チーム育成プログラム 今後の来る災害に向けて

認定特定非営利活動法人AMDA 大政朋子

9月6日、7日に『第2回AMDA災害鍼灸チーム育成プログラム』を実施しました。AMDA（アムダ）は、東日本大震災における岩手県大槌町での災害時の急性期から慢性期に対する鍼灸治療の実績、宮城県石巻市雄勝町での慢性期における訪問鍼灸治療の定着などから災害時の鍼灸治療の重要性を認識しました。東日本大震災の経験をもとに、今後の来る災害に備えて災害鍼灸チームを編成することを目的に開始した当プログラムでは、全国の鍼灸師、鍼灸師を目指す学生を対象に、実際に被災地に足を運んで現地を体感してもらい、また、被災地の医師や鍼灸師より緊急救援時の対応、医療との連携などの講義から災害鍼灸を学びます。

今回、全国から15名の参加者が集まりました。初日は岩手県大槌町で、AMDAが緊急救援時から活動を共にした地元の植田俊郎医師と佐々木賀奈子鍼灸師、明治国際医療大学の今井賢治教授からそれぞれ講義を受けました。2日目は石巻市雄勝町で、震災当時に大槌町に鍼灸治療を取り入れた米国ウィスコンシン医科大学の高橋徳教授と震災後に雄勝に訪問鍼灸を取り入れた小倉健一郎医師の講義を受けたほか、吉田保鍼灸師が取り組んでいる雄勝の訪問鍼灸を見学しました。参加者からは、「震災から3年以上経って初めて被災地に来た。今後の災害で自分に何が出来るか見えた」などの感想があり、今後の災害時には緊急救援活動に参加したいとの言葉もいただきました。現在、AMDAでは「ERネットワーク」の登録に鍼灸師という新たな枠を設け、将来の災害に備えています。今後も当プログラムを継続し、災害時には鍼灸チームと共に緊急救援活動を展開する予定です。

